



挑戦のステージが始まりました。

「のぞみの 星ぞ かがやけり」

2学期がスタートして2か月、きょうりょくステージが終わり、ちょうせんステージが始まります。きょうりょくステージはじめの会で「いったん決心したら、必ずやり抜く人になる」「親切な人間になる」と願いを伝えましたが、運動会では友達のことを思いやりながら、力を合わせてやり抜く姿をたくさん見ることができ、幸せな気分になりました。みんなで何かをする楽しさ、やり抜いた達成感などを味わうことができた「きょうりょくステージ」だったことと思います。

たくさんの「きょうりょく」を経験したので、この調子で出会った仲間ともっともって力を合わせて、さらに高い目標へとチャレンジしていく「ちょうせんステージ」になることを期待しています。10月には、たくさんの北小の卒業生や本校にゆかりのある方からのメッセージをいただきました。これまでの150年の間には、11459人の卒業生がいます。町に出れば、たくさんの卒業生が見守ってくれています。私たちはそのたくさんの皆さんが積み重ねた成果の上に今を生きています。先輩たちは、袋井北小がこんな風になったらいいないつも思って、役割を果たしてきました。今小学校に通っている私たちは、自分の役目をしっかり果たして次の人たちにつなぐ役目があることを、心に刻まなくてはなりません。

校長室の棚から、100周年の年の小学生が書いた作文が出てきました。今から50年前の5年生の子は、『「私たちは袋井北小学校を卒業しました。」と大いばりと言えるような日本一の学校であってほしい』と書いていました。6年生の子は、「200年目にはもっともって良い北小になっていると思う。」と書いていました。私たちは、素晴らしい150周年を生きています。そして、次の200年を目指して新しいスタートを切りました。どんな200周年になるか、皆さんがつくる未来が、とても楽しみでなりません。

袋井北小学校の校歌に、「おおしく進む 行くてには のぞみの 星ぞ かがやけり」という歌詞があります。へこたれず、逃げ出さず、たくましく進んでいけば、夢や希望はかなうということです。袋井北小学校150周年の行事から次の200という記念の年を目指し、ちょうせんすることで、みんなが自慢できる袋井北小学校にしてほしい。

これが私の願いです。



<創立 150 周年記念横断幕>

今年度、袋井北小は創立 150 周年を迎え、6 年生児童がデザインを考えてくれた、記念の横断幕が完成しました。運動会でお披露目させていただきました。現在、運動場南側の道路に面したフェンスに掲示しています。ぜひ、御覧ください。

○運動会への御理解・御協力、ありがとうございました。

9 月、10 月の協力のステージでは、子供たちの頑張りがたくさん見られ、学習や行事に協力して取り組む姿を頼もしく思いました。10 月の終わりには、協力のステージで最大の行事である、校内運動会を予定通り行うことができました。インフルエンザの流行により不安を抱えての実施でしたが、練習までの取り組みや当日の演技に、6 年生が考えてくれた運動会のスローガンのように、協力が発揮されました。久しぶりの全校開催だったこともあり、全ての学年で、子供同士で盛り上がる、素晴らしい運動会になりました。

保護者の皆様にも、一家庭二人の参観や見学場所、持ち物等で様々な御配慮をいただき、誠にありがとうございました。

<袋井あやぐも学園や周南たちばな学園につながる袋井北小の教育

～袋井市・幼小中一貫教育の充実を目指して～>

袋井市の幼小中一貫教育は4年目を迎えています。どの学園においても、袋井市の教育の基本理念である「心ゆたかな人づくり」の下、子供に自己有用感と自己肯定感を育みながら、自ら行動する力(自立力)と他者と協働する力(社会力)を身に付けることを目指した教育が行われています。

本校は、袋井あやぐも学園の構成校、周南たちばな学園の連携校となっています。ICT や思考ツールなどを活用し、子供が考える力を伸ばしながら学ぶ「袋井型授業づくり」や、袋井特別支援学校との連携を生かした特別支援教育など、袋井の教育における重点となる取り組みが推進されています。また、近隣のこども園や幼稚園などから年長児に来校してもらい、1 年生と交流したり運動場で遊んだりしてもらいながら、学校の雰囲気を感じてもらうことで幼小のつながりをスムーズにしていく取り組みも始まっています。

袋井市では、どの学校から進学してきた子供であっても、戸惑ったり困ったりすることがないように配慮しながら、学園同士が連携し、同じ理念の下で教育を推進しています。本校でも、小学校段階の子供に大切な「受容と枠組み」を大切にされた指導を重ね、努力してまいります。